

# JICA-CM4TIP 通信

No.22/2017.5.10

- 国境地域での郡レベルの活動
  - GP7 出動！
  - 家のようなシェルターを目指して
  - 増える山岳民族の女性リーダー
  - 再始動のパヤオ県
- CM4TIP 新メンバー紹介
  - 新チーフ松野よりご挨拶

## タイ・メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト

- ◇ タイおよびメコン地域において人身取引被害者に対する支援対策が効果的に行われるために、JICA では被害者保護・自立支援に関わる多分野協働チーム (MDT) の能力強化と、支援能力向上に協力してきました。
  - ◇ 当プロジェクトは 2015 年 4 月から 4 年間の予定で、人身取引被害者の生活再建支援のため、ケースマネージャー (CM) 等の能力向上や被害者のエンパワメント、周辺国との協働を目指す活動を実施します。
- CM4TIP : Case Management for Trafficking in Persons の意味。

詳細は HP ( <http://www.jica.go.jp/project/thailand/016/index.html> ) をご覧ください。

## 引き続き、国境地域での郡レベルの活動

このプロジェクトでは、3 つの国境地域での人身取引対策を支援しています。

去年 9 月のチェンセンで行われた、山岳民族反人身取引コーディネーター養成研修を皮切りに、今年 2 月にも研修を行い、参加者を中心に郡レベルや村落レベルで独自に人身取引対策に取り組む試みが芽生えてきました。今月末の視察ではそういった村落を訪れ、村民と今後の活動について、話し合いました。



チェンライシエルトアが資金援助した CF G が実施する女性の生計向上のための研修に参加するラフ族女性

### GP7 出動！

まず、チェンライ県のメーサイ郡にある、Goa Child P.7 Committee (通称 GP7) という村の人身取引対策委員会の 15 人と会ってお話を伺いました。この村はミャンマーとサイ川を挟んで接している国境の村です。4、5 年位前から、人身取引の被害リスクが高そうな子どもの物乞いや、児童労働が目につくようになってきました。また、10-15 歳位の若年労働者がミャンマーから不法に入国し、建設現場で働く姿も目立ってきました。そこで、この村では積極的に対策をとって活動していこうという機運が高まり、この人身取引対策委員会が立ち上げられました。

メンバーは、元々村落開発委員会の主要メンバーであり、かつ保健省ボランティア (オーソーモ) でもあることから、地元での強いネットワークを生かして活動できます。このプロジェクトの研修を受けた後、すでに 2 回の啓発活動を村で行い、町内放送の時間に人身取引のリスクと対策などを話すことで、村民の意識向上に貢献しています。ただ、村の人々の問題意識は“人身取引”という点には留まらず、村落開発全般及び家庭崩壊 (DV, 児童虐待) な

どについての大局的なものです。人身取引が行われる複雑な経済・社会背景を考えると、村での活動が多岐に及ぶことにもうなずけますが、プロジェクトの趣旨を汲みとり、いかに人身取引対策につなげていくか、これからの活動に期待が持てます。

### “家”のようなシェルターを目指して

チェンライにある男性人身取引被害者長期シェルターを訪問しました。このシェルターには、人身取引被害者として認定された人々 (男性のみ) が入居しています。4 月現在、4 人のロヒンギャ\*1 の被害者が生活していました。

彼らは漁船で働いている時に労働搾取を経験したとの事でした。その彼らに、算数や英語などを JICA の青年海外協力隊員の渡邊悠二さんが教えています。その彼が、ロヒンギャの人たちがした塗り絵を見せてくれたことが印象的でした。塗り絵を通して、彼らの心の状態をチェックできるといいます。被害者の彼らは、初めての塗り絵に戸惑いながらも、かなりカラフルに色を使いながら動物の塗り絵をしていたことから、心の状態はさほど心配ないようでした。

所長のナカリンさんは、このシェルターを“家”のようなアットホームな場所にしたいと、緑を多く使い、空間に余裕を持たせ、敷地内に球技ができるような場所を作るなど様々な工夫をされていました。また、近所の住人達にこのシェルターへの理解を促し支援してもらうために、周りの住人達とのコミュニケーションも欠かしません。倉庫には、近所の人から購入した食べ物や、肥料などがうず高く積まれていました。

彼の精力的な活動はシェルター運営のほか、国境沿いの青少年対象に小・中学校で人身取引対策について啓発活動をしたり、国境警察や教育省と一緒に子ども青少年委員会を支援したり、村の女性たちの生計向上を支援するための村での手工芸の研修など多岐にわたります。人身取引被害者の保護の第一線で意欲的に取り組む職員達と清潔なシェルターを視察して、被害者のこれからの人生に少し希望が持てたような気がしました。

注\*1: ロヒンギャとはミャンマーの少数民族でイスラム教徒。仏教国のミャンマーで市民権を否定され、隣国バングラデシュでも受け入れられず、130万人が無国籍状態にある。近年は、迫害されたロヒンギャをターゲットに人身取引が行われる“難民ビジネス”が世界的にも問題になっている。



ラティコンさん リンヤラットさん 小田調整員  
松野チーフ スワリ-部長 ラッタナ-課長  
ワリンティップさん サター-さん

## CM4TIP の新メンバー紹介

5月末で、このプロジェクトの第一フェーズの後半からずっとチーフを務めてきた百生詩緒子チーフが帰任となり、後任の松野文香チーフが4月に着任しました。

タイ社会開発人間安全保障省・人身取引対策部のカウンターパートも一新し、保護・人権啓発グループのラッタナ-課長、ワリンティップさんとサター-さんが、人身取引対策部スワリ-部長の指導の下、一緒に活動していきます。

## 増える山岳民族の女性リーダー

人身取引被害のリスクの高い山岳民族の中で、リーダーとなるような反人身取引コーディネーターを養成しようという試みは、ゆっくりではありますが少し目に見えて進んできたようです。まず、それまでほとんど見かけなかったリーダー格の女性が見かけられるようになりました。

プロジェクトと一緒に取り組む地元の NGO “Center for Girls” (CFG)と一緒に、チェンコン郡の Baan Song Phi Nong というラフ族の村に行き、そこで最近出来たばかりだという反人身取引委員会のメンバーと話す機会がありました。この村は、チェンコンのカラオケバー（性産業の一角を担う）で働く女性の 70%がこの村の出身だと言われている村です。村では収入の機会に恵まれず、小学校 6 年の卒業を待たずしての児童結婚が慣習となっている、難しい村です。ミャンマーとラオスからの薬物の流通ルートにもなっているようで、多くの家庭で家庭崩壊が進行していることが問題です。300 世帯ほどの小さな村ですが、山の中に家族が点在していることもあって、なかなか村単位での活動が難しいところでした。

発足したての反人身取引委員会には 3 人の女性メンバーがいました。CFG が 2 月に研修を行った際に同村からの女性参加者が一人だったことを考えると、女性活用の好例と言えるでしょう。村の女性代表のナコーさんが、同委員会を発足させるために村の一人ひとりと渡り合っ、男女含む 23 人のメンバーを集めました。人選にあたって気を付けたことは、ボランティア精神があること、公平性、そしてリーダーの資質の有無でした。これから反人身取引に関する活動をしていきたい、という意向でしたが、活動内容はまだ具体的には上がってきていません。

## 再始動のパヤオ県

パヤオ県は、80 年代からセックスワーカーを多数輩出していることで有名な県でした。プロジェクトのターゲット地域として、以前からその MDT と一緒に活動はしていましたが、過去 4 年間、同県出身のタイ人帰国人身取引被害者がいないということから活動が進まなかった地域です。

しかし、ここに来て積極的に人身取引に関する予防活動をしたい、という申し出を受けました。パヤオの社会開発人間の安全保障省県事務所働くソーシャルワーカーに会い、今後の計画を話してもらいました。

パヤオ県のムアン郡にも多くの山岳民族が仕事を求めて多数やってくるので、社会開発人間安全保障省のボランティア・オーポ-モー達を動員し、省と NGO から講師を招き、その人たちを対象に研修をしていく予定だそうです。これから内容を詰めていくようなので、プロジェクトがどのように支援していくか一緒に考えていくこととなります。今後の、パヤオでの MDT 機能強化の活動に期待が高まります。

## バンコク日本人会から支援団体への寄付

百生チーフの粋な計らいから、バンコク日本人会バザーの収益金の一部を、チェンライ県の老舗 NGO “New Life Center Foundation” に寄付していただきました。この NGO はアメリカ人の創設したキリスト教系の団体で、反人身取引への啓発活動や山岳民族の子女の寮を運営しています。このプロジェクトのパートナーとして、チェンライでの活動などを通じて信頼関係を醸成してきた経

緯から、この NGO の寮の寮生たちのロッカー購入経費 127,840 バーツ（約 40 万円）を日本人会から寄付していただく運びとなりました。この場を借りて、改めてバンコク日本人会の皆様へ感謝を申し上げるとともに、寮母さんと NGO スタッフの方の大変な喜びようをご報告させていただきます。



バンコク日本人会からの寄付 127,840 バーツを受け取る NGO スタッフと寮母さん。

## 新チーフ松野よりご挨拶

初めまして、4月よりこのプロジェクトのチーフに着任しました松野文香（まつのあやか）です。18年前、国連開発計画（UNDP）の JPO として赴任したバングラデシュで、人身取引被害者でもある性産業で働く女性たちの保護と自立支援に携わってから、人身取引の問題と向き合ってきました。タイには、二回目の赴任となります。今回は国際労働機関（ILO）で人身取引被害者も含む児童労働と、移民労働問題を専門にしていました。

今回のプロジェクトはタイの政府・社会開発人間の安全保障省との共同事業で、政府の方々と二人三脚で業務を遂行するので、より直接的で効果的な支援が人身取引の被害者の方たちのためにできるのではないかと、思っています。これから、皆様のご指導の下、任務に励みたいと思います。

どうぞ、よろしくお祈りします。